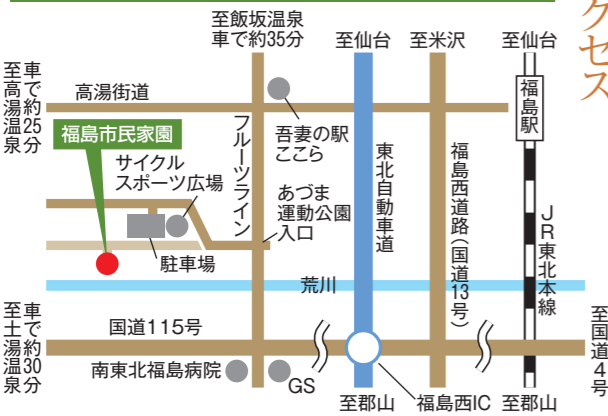


福島市民家園 福島市上名倉字大石前地内(あづま総合運動公園内)



問い合わせ/☎024-593-5249
 開園時間/午前9時30分～午後4時 ※入園料無料
 休園日/毎週火曜日(火曜日が祝祭日の場合はその翌日が休園日)
 年末年始(12月28日～1月4日)
 交通/・JR福島駅からタクシーで約25分
 ・JR福島駅から福島交通バス(佐原行き)「室石」下車、徒歩約8分
 【平日:約5本、休日:約9本】。詳しくは福島交通 ☎024-535-4101
 にお問い合わせください。
 ・東北自動車道福島西ICから車で約10分
 周辺/飯坂温泉観光協会 ☎024-542-4241
 温泉情報 土湯温泉観光協会 ☎024-595-2217
 高湯温泉観光協会 ☎024-591-1125
 ※詳しくはお問い合わせください

季刊誌「板木03」発売中

福島で行われてきた年中行事や民俗資料(民具)について、分かりやすく説明しています。

価格 300円(税込み)

※民家園の運営費に充てられます。

●福島市内、郡山市内、会津若松市内の一部の書店で販売
 詳しくは市ホームページ(総合トップ→各課のページ→文化課内「季刊誌」創刊のお知らせ)または文化課へお問い合わせください。
 <問>文化課 ☎024-525-3785

●県外発送
 名前、住所、電話番号、商品名「板木」、必要冊数を以下の問い合わせ先まで電話またはメールでお知らせください。
 ※送料と振り込み手数料はお客さま負担となります。
 <県外発送に関する問い合わせ窓口> 福島県図書教材株式会社
 ☎024-522-3157 ☎024-522-3199 メール:futsuhin@fukukyohan.co.jp

アクセス

◆ ◆

その土地で生きていくためには、人々の間に共通の理解が必要になります。年中行事には、自然への畏怖や祖先への感謝が根源にあり、そこには深い祈りが織り込まれています。自然も人も全てが繋がっています。

◆ ◆

仲良く暮らすための知恵を伝える役目もあつた年中行事

「みんなのご先祖様は、その両方を分かって暮らしていたんだよ」と話す子どもたちは、素直に納得してくれます」

◆ ◆

その土地で生きていくためには、人々の間に共通の理解が必要になります。年中行事には、自然への畏怖や祖先への感謝が根源にあり、そこには深い祈りが織り込まれています。自然も人も全てが繋がっています。



1年の収穫に感謝し「おつつ」を供える

◆ ◆

その土地で生きていくためには、人々の間に共通の理解が必要になります。年中行事には、自然への畏怖や祖先への感謝が根源にあり、そこには深い祈りが織り込まれています。自然も人も全てが繋がっています。

◆ ◆

その土地で生きていくためには、人々の間に共通の理解が必要になります。年中行事には、自然への畏怖や祖先への感謝が根源にあり、そこには深い祈りが織り込まれています。自然も人も全てが繋がっています。



収穫祭では餅つきが行われ、振る舞われました

◆ ◆

その土地で生きていくためには、人々の間に共通の理解が必要になります。年中行事には、自然への畏怖や祖先への感謝が根源にあり、そこには深い祈りが織り込まれています。自然も人も全てが繋がっています。



防虫・防腐対策のため囲炉裏には火が入れられています

◆ ◆

その土地で生きていくためには、人々の間に共通の理解が必要になります。年中行事には、自然への畏怖や祖先への感謝が根源にあり、そこには深い祈りが織り込まれています。自然も人も全てが繋がっています。

会長 太田 隆夫 さん

ボランティアグループ「民家園のつどい」

今ここにいる自分の拠り所

アグループ「民家園のつどい」の会長太田隆夫さんです。「板張りの床、黒くすすけた柱、かまどなどがそのまま残っているの、足を踏み入れると、先人の暮らしの繰り返しの中にあることが分かります」

メンバーは、約100人。太田さんたちは、移築復元された民家を会場に、年中行事や体験行事を通して先人たちの生活の知恵や技術、それらに込められた願いなどを若いお母さんや子どもたちに伝える活動をしています。

「囲炉裏で火を焚くと子どもたちはびびります。今は、家の中で火を焚くなんてことしませんから

ね。囲炉裏の火は、灯りにもなったし、ここで煮炊きもしました。燻煙は茅葺き屋根の防虫、防腐対策になりました。一方できちんと管理しないと火事になります。火には、いい面と怖い面があ

12月	10月	9月	8月	7月	6月	5月	3月	2月	1月	月		
正月迎え	収穫祭	稲刈り・脱穀	子ども秋祭り	お月見	盆の行事	たなはた	むけの朔日(ついで)	田植え	男の節句(田おこし)	おひなさま	節分	小正月

参加者と一緒に行事を体験し、喜びを分かち合います

写真①～⑤ 撮影:市民カメラマン

①② 穴戸良之さん
 ③④ 中山真波さん
 ⑤ 佐久間智之さん



⑤ たなばた(七月上旬)
 青竹に七夕飾りをして各民家の軒先に立てます。飾りの種類ごとに願いごとの意味があり、豊漁・豊作、長寿などを祈ります



④ 田植え(五月下旬)
 5月5日のこどもの日に田おこしをした田んぼに入って田植えをします



③ ひなまつり(二月下旬～三月初め)
 各民家にひな人形を飾り、菱形に切った紅白の餅を供えて女の子の健やかな成長を祈ります



② 節分(二月下旬から三月初め)
 各民家の門口の柱にやっかがし(イワシの頭を刺した豆の枝とヒイラギ)を取り付けた後、豆まきや大豆の揚げ方で一年の天気を占う豆占(まめうら)を行います



① 小正月(二月上旬)
 松飾りやしめ縄などを燃やし、正月に来た神様を送り出す「どんど焼き」やミズキの枝に紅白のだんごを付けて五穀豊穡(ごこくほうじょう)を祈る「だんごさし」を行います